

# 魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：板橋潤子 所属：高知県立高知若草養護学校 記録日：2016年2月21日

キーワード：「肢体不自由」「社会生活」「自分で考えた行動」「電動車いす」「作文指導」

## 【対象児の情報】

- ・学年 小学6年 男児
- ・障害と困難の内容
  - ◎肢体不自由
- ・自走式の車いすでバリアフリーな室内の移動は可能だが、実用的ではなく、介助されることが多い。
- ・話しことばでのコミュニケーションが可能。ひらがな、カタカナ、小学校1年生程度の漢字の一部の入った簡単な文章を声に出して読むことはできるが、内容を理解することは苦手。
- ・昨年度までの学習ではパソコンを使用し、50音配列のひらがなキーボードで2～3語文の簡単な文章を入力できるようになった。拗音、促音等を間違えることが多い。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況
- ①電動車いすで、安全に気をつけて一人で行きたいところに行けるようになる。
- 電動車いすでの移動は、子どもが自分で考えて主体的に活動できるようになるための手段として考えている。同時に、電動車いすは、将来、一人で外出時に使用すること等を想定すると、命の危険性につながることを考慮する必要がある。そのため、指導の初期段階に当たる今年度は、自分で安全面に配慮した運転を意識し、行動できるようにするための指導を行いたい。
- ②自分の気持ちなどを交えた簡単な文章が作成できるようになる。（ひらがな、カタカナ）
- 作成した文章は、家族や友達へのメールでのやりとりを通じて、伝わる喜びを次への意欲につなげる。また、発表できる場をつくり、認められるようにしたい。
- ・実施期間 2015年5月～2016年2月
  - ・実施者 板橋潤子 学級担任団
  - ・実施者と対象児の関係 学級担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

#### （1）安全に気をつけた電動車いす走行の学習

- ・電動車いすには憧れの気持ちがあり、自分で自由に移動できる電動車いすが上手になりたいと思っている。
- ・経験したことがないことを予測することは苦手で危険の予測が難しい。
- ・周囲に気をとられることが多く、教員に声かけされることで危険を回避できる。

#### （2）自分の気持ちなどを交えた簡単な文章の作成

- ・昨年度まで、PCを使用して文章を入力していた。話していることばと同じような内容を、入力し文章にすることができるが、文章は短くワンパターンな文章になる。漢字に変換したがるが、でたらめな漢字に変換してしまうこともあり、日にちが経つと、読めないものがあった。
- ・今年度から、持ち運び可能で、自分でセッティングができ、使い方に広がりがあること等から iPad を使用し、学習に取り組むことにした。



## ○活動の具体的内容

### (1) 安全に気をつけた電動車いす走行の学習

ステップ①では、移動する前に、「KEY NOTE」で、「KEY NOTE」で、右側通行、一時停止して左右確認等の5つの安全ポイントを確認後、電動車いすで係活動等に取り組んだ。週に1回、評価の日に、上記の安全ポイントの確認をしないで移動し、動画を後方から撮影した(図2)。用事を済ませたら、すぐに、動画を見て振り返りをし、「できた」「できなかった」を教員と一緒にチェックシート(図3)で確認した。

校内での電動車いすの学習と並行して、校外での学習時にも、電動車いすを活用し、学習に取り組んだ。



図1 安全ポイントスライド



図2 後方から撮影：一時停止左右確認



図3 チェックシート

ステップ①が通過(全項目○を三週連続)したら以下のステップ②、③に移行する。

ステップ①(校内同一フロアの廊下：すぐ傍での見守り)⇒ステップ②(食堂：人の多い場)  
⇒ステップ③(校内同一フロアの廊下：一人で)

### (2) 自分の気持ちなどを交えた簡単な文章の作成

行事などの振り返りの作文、お礼状、メールなどでの文章作成の学習に取り組んだ。

①行事などの振り返りの際に動画や写真を見、②5W1Hのひな型や、思ったことのヒントとなるスライドを見てから考えをまとめ、③話したことを動画に記録し、動画で確認しながら④「かなトーク PLUS」で入力するという順で文章を作るようにした。

【活用したアプリ】



図4 かなトークで文章作成の様子

「かなトーク PLUS」は文字入力時、音声ガイドがあり、本児にとっては入力が簡単になった。また、読み上げ機能があるので、自分の作成した文章を聞いて確認できるようになった。入力時の反応時間も設定し、誤入力の減少をねらった。また、作成した文章は、そのままメールを送信できる機能があるので、本児が自分で操作して、メールを送ることができるようになった。

今までの作文指導では、特殊音などの文字の誤入力については、その都度教員が指摘して間違いに気付かせていたが、自由に自分で文章を書くことを大切にしたいと考え、読み上げ機能で確認して、自分で気が付いたときに直すのを教員が手伝った。

## ○対象児の事後の変化

### (1) 安全に気をつけた電動車いす走行の学習

6月中旬からの実施で、10回の評価を実施した。右側通行の定着に時間がかかったが、校外学習での電動車いすの使用が安全意識に良い影響も与え、10月末にステップ1を通過した(表1)。

(※行事等で週に1回の評価が実施できなかった時があったため、6月～10月、10回の指導になっている。)

表1 電動車いす安全ポイントチェック(ステップ1) 評価時の結果

チェック項目	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
右側通行	x	○	x	x	○	○	x	○	○	○
一時停止	○	○	x	○	○	○	○	○	○	○
自動ドアの確認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
戸・カーテンの前	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○
衝突しない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



石畳での走行で「怖い」と思う経験が、安全に気を付けた走行により影響

指導の経過では、iPadの動画を見ながら振り返ると、最初は教員の指摘を受けていたが、すぐに自分から「あっ、ここ」と気付き、安全に気を付けて校内での走行ができるようになった。同時に、「これは○」と自分でよかったと思うところを再確認することにもつながっていた。また、ビデオ評価を開始してから、日常生活の中で「一度止まって、右、左」とつぶやきながら、気を付けて移動する場面が増加した。併せて、校外での走行の「怖い」と思った経験が、安全意識を高めることにつながった(図5)。

図5 修学旅行時の様子

その後、ステップ②(食堂:人の多い場)は、すぐに3回連続合格し、通過した。

現在は、ステップ③の一人で校内を移動する学習に取り組んでいる。本児に気付かれないうちに見ていると、教員の姿がなくても、一時停止等ができるようになり、さらに、友達の通り過ぎるのを待って行動できるような姿も見られ始めた。また、1月末から、寄宿舎生活でも電動車いすを使用するようになったが、同様に安全面に気を付けた行動ができている。

## (2) 自分の気持ちなどを交えた簡単な文章の作成

指導の経過として、当初は、経験したことを写真等で振り返り、書くことのポイントの確認をし、話をしてから、文章にした。しかし、話をしていたときに出た面白い表現や思ったことは、文章にすると抜けてしまうことが多かった。また、経験したことから日にちが開くと、途端に文章が短くなり、思ったことが出てこなくなってしまう傾向にあった。(※図6は初期の段階の、かなト

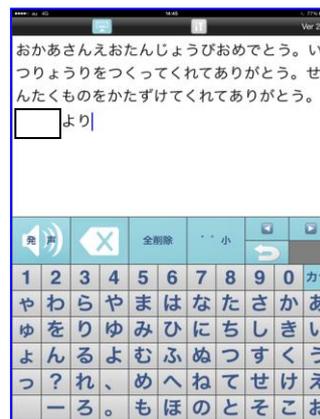


図6 初メール

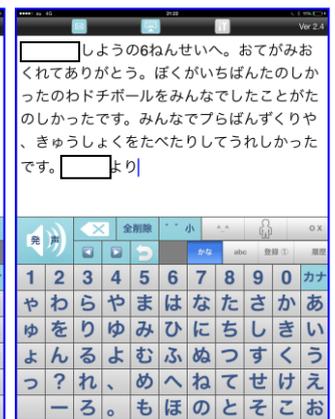


図7 1学期末:手紙

ークでの母への初めてのメールである。図7は1学期末に実施した居住地校との交流学習後の手紙である。)

そこで、手立ての工夫を図り、体験を話してまとめているところを動画で記録し、文章にするときには、その動画を見て、入力することを追加した。

また、文章の作成は、本児が「人に伝えたい」、「面白かった」等、思ったことを表現したいようなことについて、日にちを開けずに取り上げるようにし、気持ちを交えて言語化できるようにした。併せて、校内では壁新聞の掲示や、集会での発表、高知新聞に「こども記者」として投稿する工夫も行なった。そして、本児の「人に伝える」「読んでもらう」ことに対するモチベーションを上げるとともに「伝わる」実感がもてるようにした。

すると、今までより気持ちを交え、人に伝わることを意識した文章が書けるようになり、文章も長くなってきた。

生活の中での行動の変化は、「居住地交流校の友達に聞きたいことがある。メールを送りたい」と、教員からの提案ではなく、自分からメールを作成、送信することができるようになった。また、週末にはお迎えの時間を尋ねる内容等の、メールを母親に送り、休み時間には返信を楽しみに、自分でiPadを取り出し、読み上げ機能で聞いて、メールを確認するようになった。

他にも、自分で忘れ物に気づき電動車いすで教室に戻る等、今までには見られなかった、自分で考えた行動が増えるなどの変化がみられた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ○主観的気づき

- ・「できる」環境をつくったことで、自信をもって、行動ができるようになったのではないかな？



#### ○気づきに関するエビデンス

- ・電動車いすの指導では、事前に気を付けることを視覚的に確認したことで、気を付けることを意識しやすくなった。振り返りに動画を使うことで、自分のできたところ、気を付けるところを自分で整理でき、「できた」ことを強化することができた。このことは、振り返りの後、本児の「自分で、ぶつからないように、スピードにも気を付けて運転した。できてる。」等の発言に現れている。
- ・作文指導では、本児が体験したことについて話したことを動画で記録し、それを見ながら文章にしたことで、今までより長く、気持ちも交えた文章が書けるようになった（お礼状の比較）。また、作文を学部で発表して褒められたり、こども高知新聞に投稿したものが、掲載され、ラジオでも紹介されたことで、より意欲が高まった。このことは、本児の夢が一つ増えた「将来の僕の夢は、アナウンサー」という言葉（図8）に現れている。

#### <お礼状の比較>

5年生2月 <音楽鑑賞会のお礼状> パソコンで  
関西フィルハーモニーこうきょう楽だんさんへ、19日は、ありがとうございました。  
アンコールのラデッキイがいちばんよかったです。またすてきなえんそうをきかせてください。〇〇より



6年生11月<消防署見学お礼> かなトークで  
ぼくたち11がつの9にちにはるのみなみしょうぼうしょなんぶぶんしよにきました。  
いちばんさいしよにけむりたいけんをしました。けむりたいけんをしてみてもうで  
でくちがわからなかったです。いつどこでかじがおこるのかわかりません。し  
しょうぼうしさんは、よるまでダンベルをつかてトレーニングをしていることがよくわ  
かりました  
あたらしいしょうぼうしをみてすごいひろいなーとおもいました。しょうぼうしさんた  
ちわすごくやさしいかったです  
しょうぼうしのみなさんありがとうございました。  
わかさようごがこうしょうがくぶ〇〇より

誤字が増えているが、表現や感想が5年生のものより豊かになってきている。



rkc ラジオをきいてもらえてほくもうれしかったです rkc ラジオでデビューしたのがぼくがはじめてだったのですごうれしかったです。みんなからほめてもらってほくもうれしかったです。アナウンサーがじょうずにぼくのかいたさくぶんをよんでもらってぼくもとてもうれしかったです。しょうらいのぼくのゆめわ rkc ラジオのアナウンサーになることがゆめです。

図8 ラジオで紹介されたときの様子  
右の作文は自分から書いてきたもの。

#### ○その他エピソード

- ・ 中学部に進学するにあたり、次は、障害者スポーツ大会の「スラローム」に電動車いすで参加することを目標にするといい、練習に取り組み始めた。保護者も、このチャレンジには喜び、応援をしてくれるという話になり、本児の意欲もさらに上がってきている。バックの操作は非常に難しく、まだ、うまくできないことが多いが、自分から進んで練習に取り組む姿には、本児の意欲と自信が感じられる。
- ・ 回数は非常に少ないが、本児にとって、とてもうれしいことがあったときに、自分から手紙を書いたことがあった。今までは宿題に出したら書くことはあったが、それはパターン化した内容にとどまっていた。それが、自分から、さらに、そのことがどんなにうれしかったかという気持ちの入った長い文章を書くことができた。伝えたい内容、意欲、自分にできる手段（iPad）が揃ったからこそ、できたことだと感じたエピソードである。

